

平成30年度 調布市立染地小学校 学校経営計画

学校教育目標

あたたかく たくましく まえむきに 生きる子供

目指す学校像(ビジョン)

- 基礎的・基本的な学習内容を身に付けさせ、深い学びを展開できる学校
- 学校の課題を自覚し、個々の職員が職層や経験、役割に応じ、組織の中の一員として能力を発揮できる学校
- 開かれた学校を推進し、地域の学校として保護者・地域から敬愛される学校

本校の現状と課題

- ・小規模校であることから個々の特性に対応してもらえる学校との期待が高く、通常級においても配慮を要する児童が多い。これに対しインクルーシブ教育の視点から指導力・対応力を向上させる。
- ・児童減、学級減により個々の職員への負担が大きい。職務の精選とライフワークバランスの考えに基づいた校務遂行とともに、「チーム染地小」を構築し保護者、地域の力を教育に活用する。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標 ※ 数値目標が可能な項目について設定する
学力向上	「わかった、できた」が実感でき、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる授業の実践。	情報化社会の中で育った今日の児童にとって、深い学びが実践できるよう授業改善を進める。	基礎・基本の繰り返しと授業規律を重視しつつ「わかった」から「やってみよう」へ学習意欲を向上させる。そのため、校内研究のテーマを「みんながわかる、みんなができる授業づくり」とし、ユニバーサルデザインの視点から授業改善を進める。	全国学力学習状況調査において、全国平均を上回る。体力向上で都の平均を上回る。学校評価の保護者アンケート項目で肯定意見を80%以上。
		学びを発展させるための学習機会として表現活動を重視し、各種行事で児童の発表する場を意図的に設ける。	教科学習によるインプットにより基礎・基本の定着を図るとともに、対話的活動や言語活動によるアウトプットを重視し、授業の中に発表する場を設けるとともに各種行事の中に児童の発表する場を設け、体験学習・表現学習の機会とする。	校内研究を促進し、夏季研修、指導教諭模範授業、調小研への積極的な参加をする。行事評価の肯定意見80%以上。
健全育成	支持的風土づくりを進め、いじめや偏見のない学校づくりを進める。	あいさつがしっかりとできて、自己尊重の精神を育てることにより自己肯定感の高揚を図る。	あいさつ運動週間をはじめ、日常の校内生活や授業において挨拶の習慣化を図る。また、避難訓練や防災教育の日など通し、「自分の身は自分で守る」自助を徹底して指導し、不審者対応、交通安全、火災などにも応用させる。さらに、情報モラル教室を実施しリテラシーを高める。	学校評価の保護者アンケート各項目で肯定意見を80%以上、安全安心メールの加入率90%以上、アレルギーと交通事故ゼロを目指す。
		いじめや不登校に対しては校内委員会を積極的に活用し、組織的対応により解決を図る。	都・市の2人のカウンセラーを活用し、担任や保護者、校内委員会と連携し活用の推進を図る。また、カウンセラーによる5年生児童の全員面接を1学期中に行い、子供の思いや願い、悩みなどを聞き取る。生活指導部と特別支援コーディネーターが中心となった校内委員会を共有の場とし、生活指導朝会や夕会で全教職員が児童の様子を知る。	1学期には終了予定。その後は必要に応じて面談などを実施する。教職員の年度末反省で肯定意見が80%以上。
健康・体力づくり	体力の向上を推進し、将来にわたって運動することの楽しさを学ばせる。	オリンピック・パラリンピック教育推進校として、世界の国々や障害を持つ人々に関心を持たせる。	一流アスリートによる講演等のほか、世界友だちプロジェクト担当5カ国を中心に日常的に世界のいろいろな国や文化に触れる機会を設ける。また、体育系大学との連携により正しい走り方教室を行う。これらにより、2020東京オリンピック・パラリンピックを機会に向上心の高揚につなげる。	6年生への走り方教室を1学期に実施。2学期には講演会を企画・実施し、授業公開とする。
		食物アレルギーについてはもちろん、食べることの大切さも、正しい知識と理解を推進する。	栄養士と綿密に連携を図り、ランチルームでの給食で栄養士や調理員と会食したり、食育の授業にゲストティーチャーとして招いたり、食に対する正しい知識と実践する力を身につけさせる。また、学童農園での作付け、収穫など体験的な活動を取り入れた体験的な学習を行う。	計画的に実施し、年間指導計画にも位置づける。食物アレルギー対応研修会とシミュレーションの実施。学校評価アンケートの肯定意見が80%以上。
保護者・地域との連携	家庭と地域から信頼され、安心される学校にする。	P T A、地域関係団体との連携を深め、保護者・地域の願いを学校経営に反映させる。	早い時期に個人面談をするとともに、個別指導計画などの作成にも力を入れ、一人ひとりに合った指導ができるよう、保護者と綿密な話し合いや情報の共有を図っていく。また、学校関係者評価を積極的に活用しPDCAサイクルの確立および短期化を図る。	個別の教育支援計画を保護者面談のおりにしっかり共通理解した上で作成していく。学校評価を目に見えるグラフ化し、フィードバックする。学校評価の肯定意見が80%以上。
		学校開放や健全育成、民生児童委員などと連携し、「チーム染地小」としての教育力を高める。	いろいろな立場から子供を見守り支援することを目指し、関係諸機関との会合や情報交換を密にし、多方面からの連携強化を図っていく。また、各種地域行事には学校体制として参加する。さらに、染地小学校を地域の拠点となるよう開かれた学校づくりを進める。	毎月の学校開放委員会・健全育成の会合・民生児童委員との連絡会・学童とユーフターの学校ミーティングなどを活用し、綿密に連絡を取り合い連携していく。
特色ある教育活動	支持的風土に根ざした学校、学級づくりを進め、人権尊重教育を推進する。 異学年交流学習を通して思いやりの心や協調性を高める。	児童自身が相互にそれぞれの特性を理解した人間関係を築き上げ、お互いを受け入れ認める姿勢を育む。	運動会や校外学習等の行事や体育等の日常の授業交流を計画し、通常級とたけのこ学級との交流を深め、インクルーシブ教育の充実を図ることにより思いやりの心を育成する。今後の重点事項としては、授業交流の機会を増やすことを目標に条件整備を進める。	通常級・たけのこ学級の行事交流を学期2回以上実施し、体育等の授業交流のための体制づくりを2学期までに行う。
		上級生と下級生が交流する「ハチの子タイム」を毎月実施し、他の模範となる姿勢を育成する。	上級生は毎月のハチの子タイムを企画運営することで自治的活動能力を高め、下級生とともに協調性を高め集団行動のあり方を学ぶ。また、学期ごとに「ハチの子青空給食」を実施し校庭の芝生でグループごとに給食を食することにより食に対する意識を高める。	児童アンケートと保護者アンケートの肯定意見が80%以上。